



萌芽の候、地域の先生方にはますますご清栄のことと存じます。
今月号は、糖尿病・内分泌内科主任部長の岡田より、新糖尿病教育入院についてご紹介させていただきます。

2泊3日の新糖尿病教育入院を始めました。

糖尿病の治療目標とは、血糖のみならず血圧、脂質、体重などを包括的に管理することで、合併症を予防し糖尿病のある方が健康な方とかわらない人生を送っていただけるようにすることです。近年SGLT2阻害薬やGLP1受容体作動薬などの新しい糖尿病治療薬が、糖尿病のある方の予後を大きく改善することが報告されるなど、糖尿病の薬物治療は様変わりしてきております。

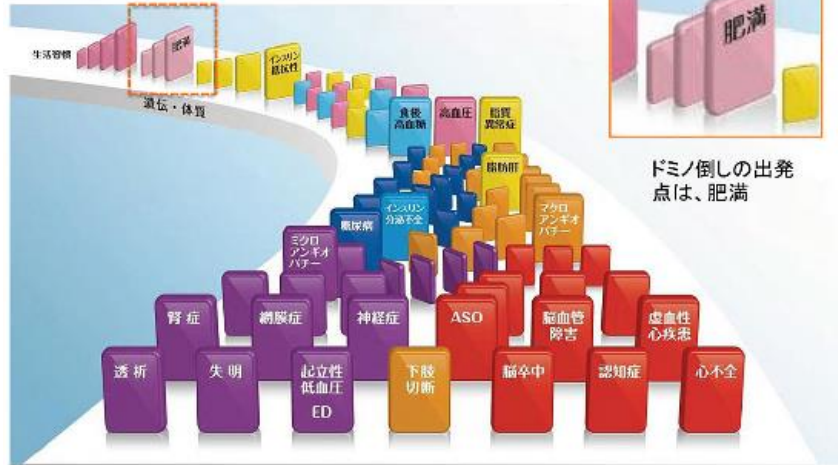
またデジタルヘルスの分野においては、**持続血糖モニタリング（CGM）**を個人のスマートフォンと連動させて「**血糖の見える化**」が可能となり、

個々の病態に応じたこまやかな指導や薬剤選択が可能となっただけでなく、患者さまご自身の病識や治療意欲が高まるといった効果も見られています。このような薬剤やデジタル機器の進歩のみならず、食事療法、運動療法、睡眠といった生活習慣に関する新たな知見が得られ、早期に適切な介入を行った場合には糖尿病が「寛解」したり、**HbA1cが6.0%**をめざすことが出来る時代となってきました。

しかし一方では、正しい病状認識を得る機会を逸し高血糖を指摘されながらも放置した結果、若くして腎不全や糖尿病性足病変、網膜症を発症したりする患者さまや、治療を受けているものの目標HbA1cに到達しないまま長期間経過し（**イナershia**）、脳心血管疾患、認知症などを発症してしまう方も一定数おられます（**メタボリックドミノ**）。

このような合併症のドミノ倒しを防ぐためには、早期に最新の知見をもって患者さま中心の治療を多職種の医療従事者（医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士）がサポートすることが必要です。当院の糖尿病教育入院は、合併症のチェック、血糖変動や病態に基づいた薬剤調整はもちろんのこと、患者さま個人が疾患への理解を深め、主体的に治療に参画できるように多職種にてお手伝いします。

メタボリックドミノ



伊藤裕：日本臨床.61(10),1837-1843,2003



これまで当院の糖尿病教育入院は1週間と2週間のパスのみでしたが、新たに**2泊3日（水～金）、週末（金～月）など短期間のパス**をはじめました。特に糖尿病初回指摘の方や病歴の短い方が短期間パスを利用することで、正しい病識を持ち、自らの主治医となるお手伝いできれば幸いです。また従来どおり、内服にて血糖コントロール不良の患者さま、インスリンやCGMの導入を希望される方、合併症多数の方、悪性腫瘍を疑ったり合併している方、認知機能低下により療養困難となった患者さまなど、お困りの症例を入院加療いたしますので、ぜひご紹介ください。



当院は地域医療の拠点病院として、今後も地域医療に貢献していく所存です。何卒宜しく願いいたします。

緩和ケア認定看護師の活動について

意思決定支援：がん患者さんの病期とその支援



緩和ケア認定看護師の小林身和子です。現在勤務している病棟は血液内科・小児科・神経内科があり、特に血液内科では、治療期から終末期まで入退院を繰り返し長期にわたり治療を受ける患者さまが多く、また輸血依存の状態では療養の場の選択肢は限られていました。しかし、少しずつ輸血対応可能なクリニックが増え、患者さまにとっては住み慣れた地域に戻れたケースも経験しました。今後も患者さまの意思決定を支援し、QOLの改善ができるよう多職種と協働し関わっていきます。

臨床検査科 輸血室紹介



輸血検査室では全自動輸血検査装置(IH-1000)を導入しており、ABO・Rh血液型、交差適合試験、不規則抗体スクリーニング・同定、抗体価、直接・間接クルームス試験を主に行っています。

また、血液製剤の一元管理、副作用の把握、血液センターからの遡及調査や日々変化していく輸血情報への対応など、安全な輸血のために日々努めています。年間血液製剤使用単位数は、赤血球製剤約4,300単位、血漿製剤約500単位、血小板製剤約10,000単位です。



今月一品

春キャベツで 納豆コールスロー



春キャベツは、普通のキャベツに比べると水分が多く、葉が柔らかいのが特長です。サラダなど、生食に適しています。

材料(2人分)
春キャベツ 150g
納豆 1パック
納豆のたれ・からし
マヨネーズ 大さじ2

《 作り方 》

- ① キャベツは千切りし、洗ってしっかり水気を切る。
- ② 納豆に付属のたれ、からし、マヨネーズを加え、粘りが出るまで混ぜる。
- ③ ①と②をよく混ぜ合わせる。



栄養管理科